

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

<p>自進力！西富 ～実感・共感・主体性～</p> <p>【実感】 ・体験的な活動の充実を図り、実感を伴った理解につながる学びを目指します。(知) ・自分とつながる様々な人やものとかかわりながら、自分のよさを実感する力を育てます。(徳)</p> <p>【共感】 ・授業の中で互いの意見を認め合いながら学ぶ態度を育てます。(知) ・身近な自然や人との交流を通して共感する心を大切に、豊かな感性や思いやりの気持ちを育てます。(徳)</p> <p>【主体性】 ・規則正しい生活や楽しく運動する習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) ・地域に愛着をもち、自分ができることを進んでしようとする態度を育てます。(公) ・多様な人とのコミュニケーションを通して視野を広げ、持続可能な社会の創造に向け行動しようとする態度を育てます。(開)</p>
---

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

<p>実感する力 共感する力 主体的に取り組む力</p>	<p>具体化した資質・能力</p> <p>人・ものと関わろうとする姿勢 思いや考えを伝え合う力</p> <p>主体性・積極性 よりよい社会の実現を目指す態度</p>
--------------------------------------	--

中期取組目標

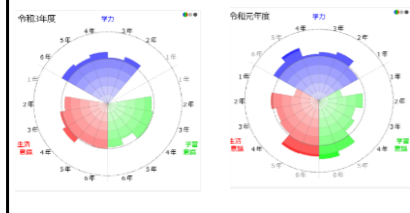
<p>○「自ら問いを見つけ、本気で考えを深め、自らの言葉で語る子どもの育成」を目指し、授業改善を進めます。 ・3年間を通して、どの子どもも安心して自分らしさを発揮し、学ぶ楽しさが実感できる授業づくりに取り組みます。 ・3年間を通して、子どもの考えを生かしながら、協働して主体的に問題解決をしていく授業づくりに取り組みます。 ○子どもたちが自他のよさに気づき、思いやりの心をもってよりよい人間関係を築こうとする姿勢を育てます。 ・3年間を通して、身近な自然や様々な人とかかわり、本物に触れる活動や体験を大切に、心豊かな学校生活を送れるようにします。</p>
---

学力向上アクションプラン

<p>重点取組分野</p> <p>授業改善</p> <p>担当 重点研推進</p>	<p>具体的取組</p> <p>①重点研のテーマを「自ら問いを見つけ、本気で考えを深め、自らの言葉で語る子どもの育成」とし、社会科・生活科を中心に、子どもの考えを見取り、子どもの思考を大切に授業展開を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。②授業研究を通して、子どもの主体性を引き出すための学習課程を検討・検証する。③授業の振り返りを大切に、子ども自身が学びを自分ごととしてとらえ、学んだことを実感・共感しながら深めていくことができるようにする。</p>
---	--

学力向上に関わる本校の状況

・横浜市の学力学習状況調査の結果では、学力、学習意識、生活意識上、概ね横浜市の平均をどの学年でも若干上回っている傾向が続いている。  
・学年が上がっていくにつれて学力の向上がみられる。  
・学習意識調査の結果では、学校全体として国語、算数、理科での意識が横浜市の平均を大きく上回っている傾向がある。  
・学習意識では音楽への意識がどの学年でも低い傾向が見られる。  
・学力調査では、どの学年も横浜市の平均よりも学力層が高い割合が多く、学力層が低い割合が少ない結果となっている。  
・本校の特徴として、学力層が高くて、「学習することが好きですか」という調査と比較していくと、好きと嫌いの割合が二分する傾向がほとんどの学年で見られる。  
・高い学力層が多いのは1日、8時間から9時間の睡眠をとっているか否かと答えた子どもたちだったことは横浜市の傾向と一致している。  
・「学校の授業に進んで取り組んでいますか」という質問に対して、学習が好きと答えた子どもたち全員が取り組んでいると答えている。一方で、学習が嫌いだと答えている子どもの層が、授業を進んで取り組んでいないという回答の100%を占めている。



今年度の目標

授業改善、指導力向上に取り組むことで、児童が主体的に学習を進め、自分の言葉で語りながら問題解決をして、知識を獲得する深い学びを実現した上での学力の向上を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

<p>上半期</p>	<p>《重点研究の取組》 ・社会科・生活科を重点教科として取り上げ、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ・すべての子どもたちが互いに学び合う学習集団作りをする。 ・討論や話し合いなどの対話的な学びの重視をする。 ・問題解決的な学習の重視をする。 ・学んだことの価値に気付くメタ認知能力の育成をする。 ・教科の枠を超えて学びを創る態度の育成をする。 ・子ども自身で学習の調整をし、主体的に学んでいく力の育成をする。 ・学校教育目標の実現を研究の主軸におき、実感・共感・主体性と関連付けながら、子どもの実態にそくして教師の課題を設定する。 ・子どもが主体的に学ぶ姿、自分の言葉で、表現できる姿を目指して、研究を通して、校内で共通理解を進め、学校として育てる子ども像を明確にする。その上で、指導方法などをブラッシュアップしていき、授業力向上を目指す。</p>
<p>下半期</p>	<p>《重点研究の取組》 ・社会科・生活科を重点教科として取り上げ、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ・すべての子どもたちが互いに学び合う学習集団作りをする。 ・討論や話し合いなどの対話的な学びの重視をする。 ・問題解決的な学習の重視をする。 ・学んだことの価値に気付くメタ認知能力の育成をする。 ・教科の枠を超えて学びを創る態度の育成をする。 ・子ども自身で学習の調整をし、主体的に学んでいく力の育成をする。 ・子どもが主体的に学ぶ姿、自分の言葉で、表現できる姿を目指して、研究を通して、校内で共通理解を進め、学校として育てる子ども像を明確にする。その上で、指導方法などをブラッシュアップしていき、授業力向上を目指す。</p>

豊かな心の育成推進プラン

<p>重点取組分野</p> <p>道徳教育</p> <p>担当 道徳推進教師・道徳部</p>	<p>具体的取組</p> <p>①全教育活動の中でふれあいや体験活動を重視し、自他を大切にする思いやりの心情を育てる。②「特別の教科道徳」では、各学年に1度は授業を公開し、道徳教育の充実を図る。③たてわり活動を充実させ、6年生をリーダーに小集団を基本とした活動を通して、主体性、思いやりの心を育てながら自己有用感を高める。④友達や地域とのつながりを大切に、自ら進んであいさつができるようにする。</p>
--	---

豊かな心に関わる本校の状況

・本校は閑静な住宅街の中に位置している。同居、あるいは身近に祖父母が住んでいる家庭が多い。  
・また、家庭や地域からは、学校の教育活動に対して高い関心と大きな期待が寄せられている。家庭の社会規範意識も高く、児童への期待も大きい。  
・子どもたちは高齢者や下年齢の子に対して優しい心遣いが感じられる。  
・好奇心旺盛で、学習に取り組む意欲は高く、いろいろな活動に積極的に取り組もうとする。  
・自分たちの力で話し合いを通じて問題解決していくことに課題がある。  
・令和3年の横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査の結果から、「人と話したり、聞いたりすることが好きだ」「自分にはよいところがある」「自分からあいさつをしている」と回答した児童の割合が低く、自己肯定感やコミュニケーション力にやや課題が見られる。  
・自分の力に自信をもてない子や自己肯定感を確立できていない子が、自分の思いを相手に分かりやすく表現することが苦手なために、トラブルになることもある。  
・こうした中で、西富岡小学校では、友だちどうしのかかわり合いの中から得られるコミュニケーション能力や、自分で体験したことから確実な力を身につけてほしいと願っている。  
・学校生活の中においても、「多様な見方や考え方のかかわり」、「友だちとかかわり」、「地域とかかわり」、こうした場を意図的に設定し、子どもたち一人ひとりが互いを認め合うこと、また、自分のしていることが他の人から認められ役に立ったと感じたり、称賛されたりすることで、自分のよさを見つけたり感じたりすることができるようにしていく。  
・子どもたち自身が、自分や、自分の考え、想いが大事にされたという経験を持つことで、他の人にも同じように接することができるようになり、人の気もちによりそう心が育つと考えている。

今年度の目標

「自進力！西富」をスローガンに、さまざまな教育活動の中で、進んで人とかかわりあうことを大切にしている。

目標を実現するための具体的行動プラン

<p>上半期</p>	<p>《道徳科の取組》 ・資料または読み物を活用し、道徳教育の要となる道徳の時間の指導を通して、子どもが道徳の見方・考え方、感じ方を多様に広げ、自分事として学んでいくようにする。 ・全学級の道徳授業公開を年一回以上実施する。 ・懇談会などを通して、道徳の授業について話し、家庭との共通理解を図る。 《他教科での取組》 ・別業を活用し、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育と各学級の道徳の時間との関連を図り、豊かな体験を生かして指導を行う。 《たてわり活動》 5年生および6年生がリーダーとなり、たてわり集団活動を行い、高学年のリーダー意識と自己有用感を高めるとともに、各学年が自らの役割を果たして活動することを通して、互いを思いやる気もちや協力しようとする気もちを育てる。 《あいさつ活動》 委員会活動を中心にあいさつ活動を行い、自ら進んであいさつができるようにする。</p>
<p>下半期</p>	<p>《道徳科の取組》 ・資料または読み物を活用し、道徳教育の要となる道徳の時間の指導を通して、子どもが道徳の見方・考え方、感じ方を多様に広げ、自分事として学んでいくようにする。 《他教科での取組》 ・別業を活用し、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育と各学級の道徳の時間との関連を図り、豊かな体験を生かして指導を行う。 《たてわり活動》 5年生および6年生がリーダーとなり、たてわり集団活動を行い、高学年のリーダー意識と自己有用感を高めるとともに、各学年が自らの役割を果たして活動することを通して、互いを思いやる気もちや協力しようとする気もちを育てる。 《あいさつ活動》 委員会活動を中心にあいさつ活動を行い、自ら進んであいさつができるようにする。 《人権キャラバン》 人権問題について考える機会を通じて、命の尊さや思いやりの心など人権尊重意識を養う。</p>

健やかな体の育成プラン

<p>重点取組分野</p> <p>健康教育</p> <p>担当 体育・保健・食育</p>	<p>具体的取組</p> <p>①市体力・運動能力調査、市学力・学習状況調査の生活・学習意識調査を分析し、生活習慣の改善に向けて、学校保健委員会等を通じて児童が課題解決を図る機会を設定する。 ②西富タイム(短縄や長縄)を計画的に実施し、楽しみながら運動する習慣を身に付け、体力の向上を図る。</p>
--	---

健やかな体に関わる本校の状況

・高学年になるにつれて、体力・運動能力や生活実態の項目が下降していく傾向がある。  
・「何時くらいにねますか？」の項目で、横浜市全体と比較して睡眠時間が短い傾向がある。  
・新体力テストの結果より、得意な動きと(運動)と苦手な動き(運動)の差が大きいという実態がある。  
・休み時間は外遊びをする児童が多いが、個人差があり、内遊びに偏る児童もいる。  
・給食は、好き嫌いを減らしてしっかり食べるように指導しているが、学級または個人により差がある。  
・保健学習では、自分の生活と関連付けて見つめ直す機会を設けている。  
・学校保健委員会での活動を生かして、学級や自分の生活習慣を見直す機会を設定している。  
・学区には大小様々な公園があり、放課後体を動かす遊びをする児童もいるが、習い事等で遊ぶ回数が少ない児童もいる。  
・地域には、ソフトボール、サッカーなどのスポーツクラブがあり、運動が好きな児童が所属している。また、スライミングスクールに通う児童も多い。  
・睡眠、食事、歯磨き等、多くの児童は健康的な生活習慣が身に付けられている。

今年度の目標

児童が自らの体力や健康に関心を持ち、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付けることにより、体力の向上と心身の健康の保持増進を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

<p>上半期</p>	<p>《体育科の取組》 運動に親しむ態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む。 ・体育科では、児童が自らの課題を把握し、めあてをもって活動できるよう、教師が授業内容やワークシートを工夫し、児童がお互いにアドバイスをしたり、話し合って考えを共有したりできるような学び合い、高め合うことができる態度を育てていく。 ・保健学習で体力の向上や自己管理について学び、健康を維持する態度を養う。 《他教科での取組》 心身ともに健康な生活を実践する態度を育む。 ・食育や学校保健委員会、保健学習と連携を図り、体力向上や健康的な生活習慣に結び付ける。 《特別活動》 各児童会活動で、健康に関する企画を計画し、全校で健康に対する関心を高める。 ・年間を通してなわとびを計画し、楽しみながら運動する習慣を身に付ける。 ・学校保健委員会の取り組みで学校全体の健康に関する意識を高める。</p>
<p>下半期</p>	<p>《体育科の取組》 運動に親しむ態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む ・運動会では、体育科で培った資質能力をさらに発展させ、各学年の競技や個人の競技で成果を発揮できるよう指導する。 《他教科での取組》 心身ともに健康な生活を実践する態度を育む。 ・食育や学校保健委員会、保健学習と連携を図り、体力向上や健康的な生活習慣に結び付ける。 《特別活動》 各児童会活動で、健康に関する企画を計画し、全校で健康に対する関心を高める。 ・給食委員会による給食週間の取組により、食育との連携を図る。 ・運動委員会による、外遊びの推進や運動習慣などの取組により、学校全体での体力向上を図る。</p>

